

中学生は10年後の社会人 だからキャリア教育を推進します

(横浜市立東山田中学校学校運営協議会委員)
シンクタンク神奈川所長 角方正幸

中学を卒業し、高校・大学へと進学して順調に就職できれば十年後には社会人3年生です。ピカピカの新入社員も3年目に入って、そろそろ企業では一人前としての活躍を期待される時期でしょうか。

しかしながら、現在このような若者は半分に満たないのです。生徒の両親が高校、大学に通っていた時代、学校を出れば当たり前のように正社員で就職できたのが、今では正社員で社会人のスタートを切れるのが困難な時代となっています。また、折角就職できた会社を3年以内で離職する大卒者が3割を超えています。

このような社会環境の変化もあって、文部科学省は平成21年の2月25日に大学設置基準を改正し、「社会的・職業的自立に向けた指導等（キャリアガイダンス）」を制度化（平成23年4月1日施行）。大学が正課の授業として取り組むことを義務付けました。

各大学がキャリア開発支援を始めて気付いたことは、大学生になってからのスタートでは遅すぎる。これは自明のことで、教科の国語や理科と同じで小中高と知識を積み重ねてこそ理解が深まるわけです。つまり、キャリア教育も小学校から大学に至るまでの連続性・積み重ねが極めて大切です。さらに、キャリア教育は教員だけの力では限界があり、学内だけで解決することが極めて困難な点です。地域の企業や自治体、卒業生、専門家など学外の多様なセクターとの協力が不可欠なのです。

幸いこの地域では東山田中学校の教職員・父母・地元企業・専門家との良好な連携が図られてきました。今後はモデル中学校として、小中高の連続性も考慮し、キャリア教育を更に推進していくことを期待します。

小学校からスタートしているキャリア教育

小学校

お店屋さんごっこ・街探検・家族の仕事調べ・商店街見学

中学校

身近な職業人へのヒアリング・職場見学・職場体験
全国で約90%の中学校で実施しています。

高校

ボランティア活動・企業、NPO訪問・適職診断・大学への授業参加

大学

自己分析・インターンシップ・OB訪問・業界研究